



2024年度 中間決算報告

(2024年4月~9月)

日本出版販売株式会社 2024年11月22日

目次

1. 経営成績
2. 施策の進捗
3. 計算書類
4. 補足資料
5. appendix

1. 経営成績

(2024年4月～9月)

エグゼクティブ・サマリー

経営成績

減収・赤字決算（赤字幅縮小）

売上高	: 1,395億円（前年比86.8%）
営業利益	: ▲12.8億円（前年差+6.1億円）
経常利益	: ▲12.3億円（前年差+5.5億円）
中間純利益	: ▲4.7億円（前年差+9.0億円）

ハイライト

- 商品売上高：1,397億円（前年差▲152億円）
文具雑貨は増収も、書籍、雑誌、コミックで大幅に減収。
- 返品率：37.3%（前年差+0.1pt）
書籍が前年差▲2.3ptと改善するも、雑誌が+3.3ptと大幅に悪化。
- 運賃：前年比92.8% ※雑誌取扱手数料を除く
送品高減少に対して値上の影響で下がりきらず、▲7.2ptの減少に留まる。
- 販売費及び一般管理費：▲11.6億円
荷造費の抑制や構造改革によりコスト削減。

経営成績

経常利益は▲12.3億円、中間純利益は▲4.7億円。
赤字も、経常利益で+5.5億円、純利益で+9.0億円の改善。

(単位：百万円・%)

	2024年度	2023年度	前年差	前年比
売上高	139,532	160,737	▲21,205	86.8
売上総利益	13,985	14,534	▲549	96.2
販売費及び一般管理費	15,266	16,433	▲1,166	92.9
営業利益	▲1,280	▲1,898	+617	-
経常利益	▲1,231	▲1,782	+551	-
中間純利益	▲474	▲1,381	+906	-

商品売上高

文具雑貨は前年超えも、雑誌・コミックが大幅な減少で、対前年▲152億円。

(単位：百万円・%)

	2024年度	2023年度	前年差	前年比
書籍	72,856	77,449	▲4,592	94.1
雑誌	34,134	40,863	▲6,728	83.5
コミック	21,816	26,182	▲4,366	83.3
文具雑貨	4,863	4,320	+542	112.6
その他開発品	6,097	6,202	▲104	98.3
合計	139,769	155,018	▲15,249	90.2

商品売上高減収の要因

閉店の抑止は変わらず最重要課題であり、取引先書店の売上創出や利益拡大に取り組んでいく。

商品売上高減収 (▲152億円)

書店取引 (▲163億円)

既存店売上の減少 (▲33億円)

閉店影響 (▲56億円)

新規店影響 (+12億円)

取引変更影響 (▲86億円)

※2023年度に発生した取引変更によるもの

店頭売上の推移

全体で前年比97.9%。書籍では、ビジネス、学参ジャンルが100%超えと健闘。

<店頭売上POS実績前年比（2024年4月～9月）・%>

（日販取引書店におけるPOS調査店の実績）

— 書籍 — 雑誌 — コミック — 合計

110.0

▼半期合計

100.0

書籍 99.6%

合計 97.9%

雑誌 97.6%

コミック 94.9%

90.0

4月

5月

6月

7月

8月

9月

合計で+0.1pt。書籍は▲2.3ptと改善したが、雑誌が悪化し50%超えに。

(単位：%・pt)

	2024年度	2023年度	前年差
書籍	30.1	32.4	▲2.3
雑誌	50.7	47.4	+3.3
コミック	31.2	30.4	+0.8
開発品	38.0	37.6	+0.4
合計	37.3	37.2	+0.1

販売費及び一般管理費

荷造費の抑制や構造改革により11.6億円のコストダウン。

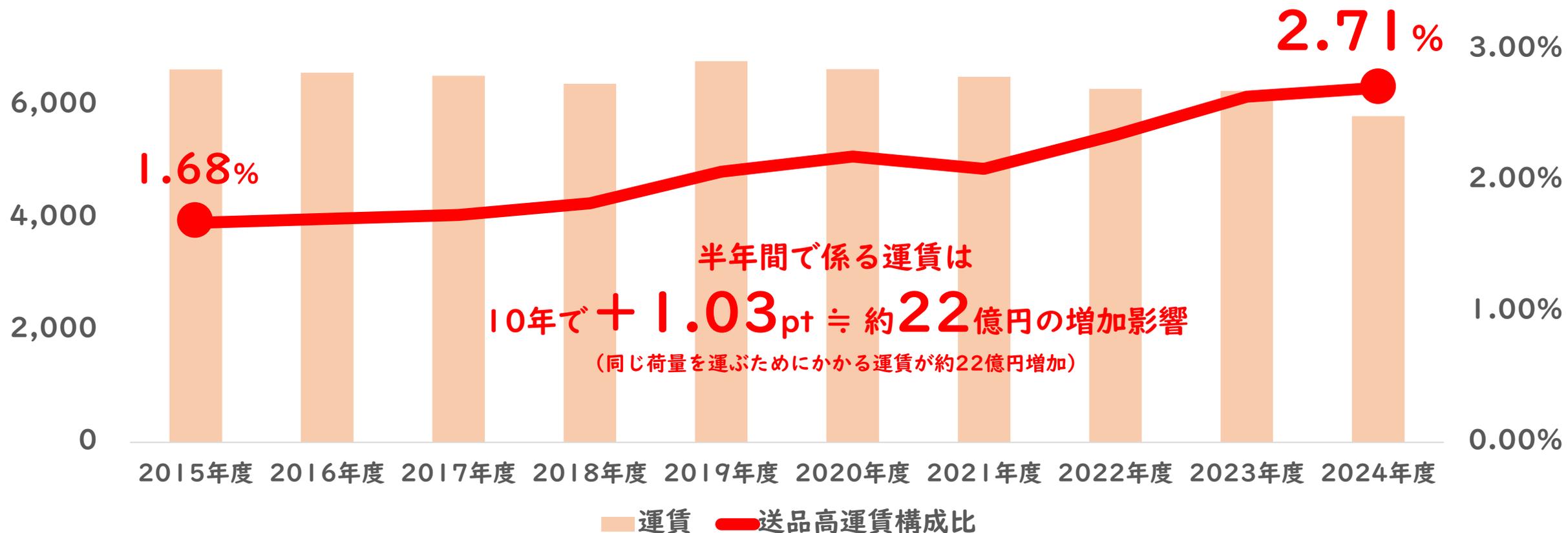
(単位：百万円・pt)

	2024年度	2023年度	前年差 (百万円)	前年差 (pt)
販売費及び一般管理費	15,266	16,433	▲1,167	▲7.1
販売費	8,304	8,799	▲495	▲5.6
一般管理費	6,962	7,633	▲671	▲8.8

運賃（送品高構成比）

運賃は前年より7.2pt減も、送品高に占める割合は上昇。前年からも悪化。

<運賃・送品高運賃構成比の推移（百万円・%）>



2. 施策の進捗

日販の収益改善のために解決すべき課題は、変わっていない

▼2023年度 決算報告で示した課題

経営課題

- ① 書店売上の減少
- ② コスト効率の悪化
- ③ 運賃の上昇

成果を生んでいる打ち手に下期も取り組み、 黒字化を目指す

▼2023年度 決算報告で示した施策

① 集客・単価向上

② 文具雑貨拡大

③ 書店の粗利改善

④ 店舗運営コストの軽減

⑤ 営業・仕入業務のDX

⑥ 書店との地域振興

⑦ 物流再編プログラム

普段書店に足を運ばない客層に、書店に行くきっかけを創出。

“新しい客層”を呼び込み、11万人を集客

書店から素敵な毎日をプロデュース!



THE IDOLM@STER
SIDE M × NIPPAN

書店コラボ キャンペーン開催!

————— キャンペーン期間 —————
2024/9/5(木) ~ 9/30(月)

キャンペーン①
対象書店でお買い物すると、
オリジナルしおり(全20種)がもらえる!

キャンペーン②
「F-LAGS」オリジナルグッズの受注販売実施!

- ・アニメやゲームのIPとコラボした書店コラボキャンペーン施策「バズコレ」「書店祭」を毎月開催。書店へ行く習慣がない層、本を読まない層の集客に繋がっている。

- ・2024年度上半期実績
 開催回数 : 8回
 開催店舗数 : 延べ2,760店舗
 集客数 : 11万人
 売上創出 : 4.2億円

©THE IDOLM@STER™& ©BANDAI NAMCO ENTERTAINMENT INC.

過去大人気だった企画の3回目を開催

ここでしかできない体験を提供することが、 書店の空間価値の向上と購入意欲の刺激にもつながっている

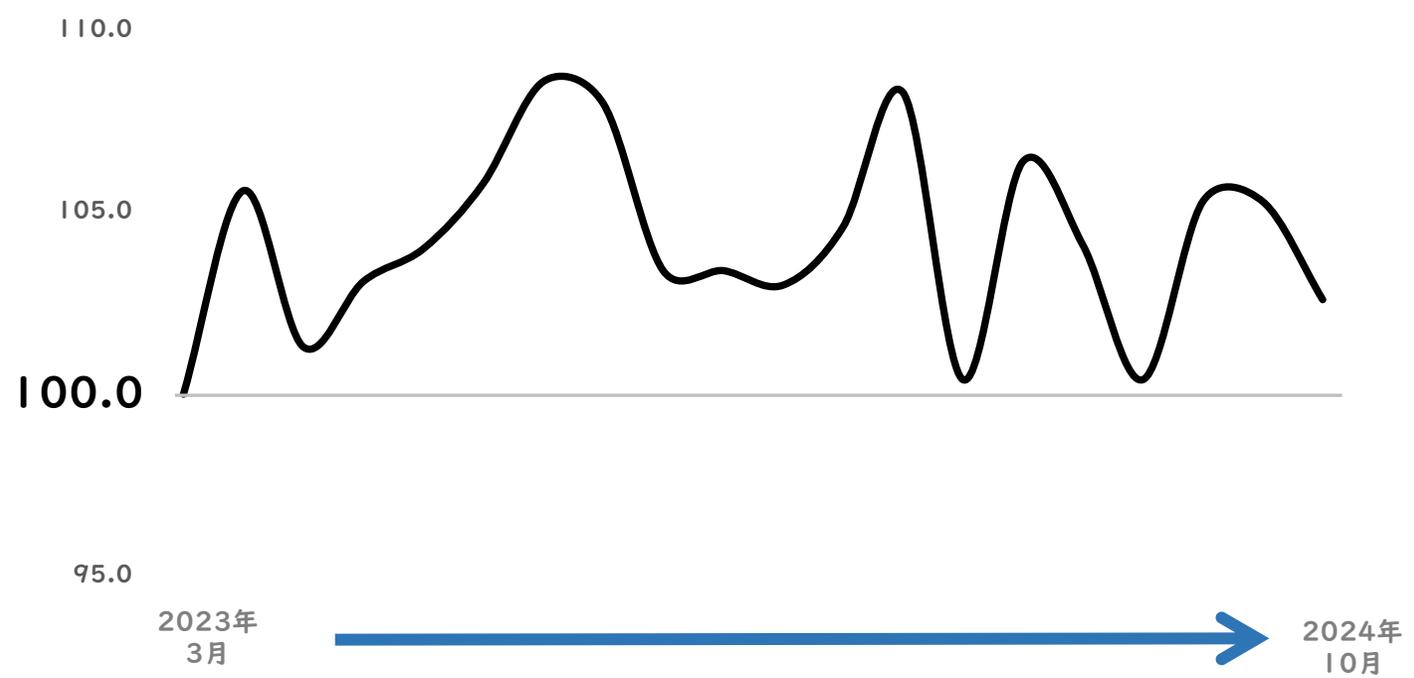


啓文社BOOKS PLUS緑町の企画は、
広島県出身の人気声優 細谷佳正さんが出演

- 「声」と「場所」をかけた店頭集客ソリューション「ボイスフレンド」は、上期3企画を実施し、延べ3,900人の集客を実現。BOOK売上効果は36万円/回。
- 広島県の啓文社BOOKS PLUS緑町にて文喫以外の書店で初開催中。
(開催期間：10月11日～12月9日)
- 2025年2月には、ブックエースとともに書店を起点とした周遊企画を茨城県にて実施予定。

文具雑貨の売上前年比は20か月※連続前年超え ※2023年3月～2024年10月

<文具雑貨 店頭POS実績推移 (%)>
(NEO Sta!店POS実績)



連続20か月連続前年超え

- JANコードで単品商品管理が可能な店頭システム「蔵人」への評価や、営業力の強化が取引拡大につながり、増収。
- 中三エス・ティと共同の商談会を上半期2回開催。9月の共同商談会は、来場者数約450人、出展社数133社と過去最大規模で開催。



ブックセラーズ&カンパニーは、出版社12社と取引開始。

参加書店のうち、約6割が粗利率30%を達成

参加書店粗利率

30.7%

粗利率30%達成

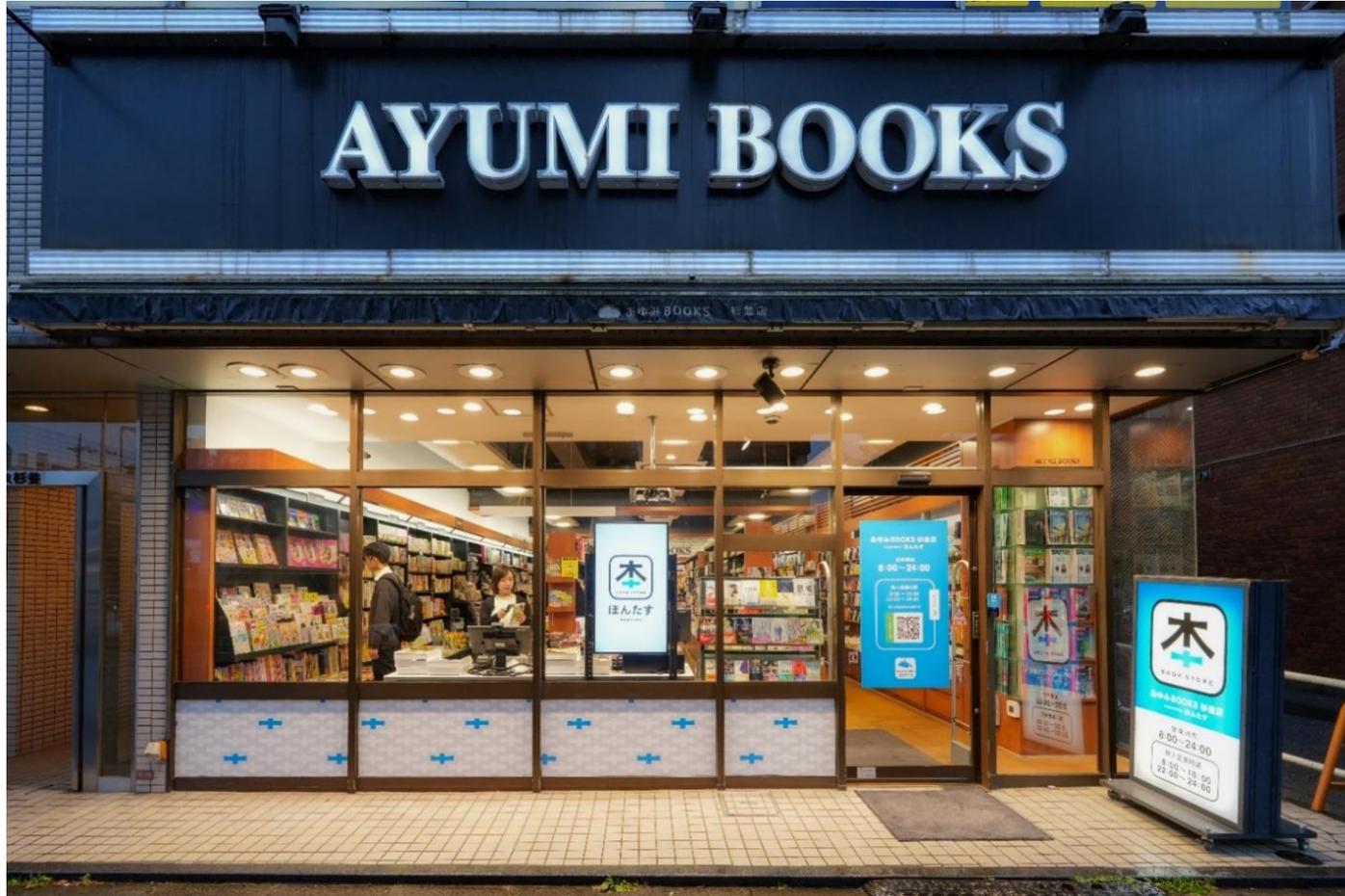
275店舗/473店舗

売上前年比

参加書店売上実績

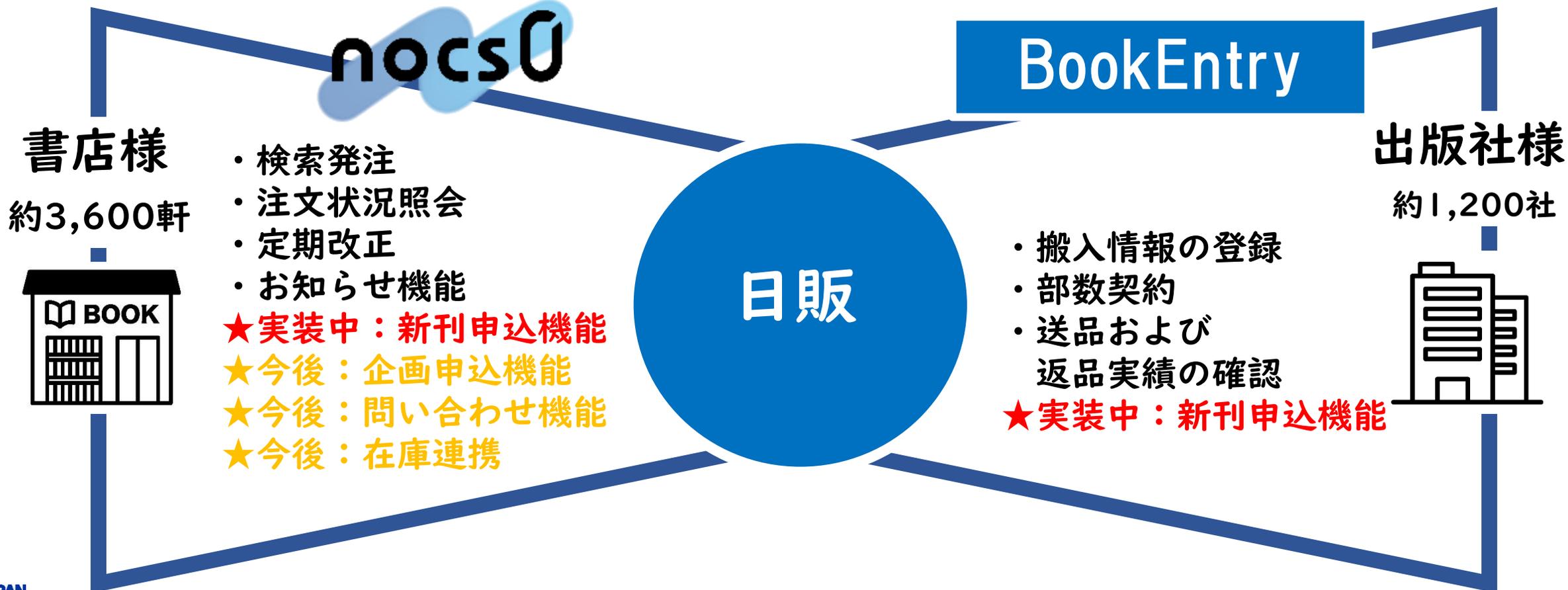
104.8%

人件費高騰や人手不足など書店の課題を解決する 省人化ソリューションを既存書店に初導入



- ・「ほんたす」2号店として、9月26日「あゆみBOOKS 杉並店 supported by ほんたす」をオープン。ハイブリッド運営への移行により、4時間/日の営業時間延長を実現。
- ・完全無人とハイブリッド双方のノウハウ・実績を元に、人件費高騰、後継者不足などの課題を解決するソリューションとして、今後、取引先書店への導入提案に着手する。

多くのお取引先様で利用開始 DXの肝となるプラットフォームが定着化



自治体の文化施設が、本によってにぎわいを復活 近隣書店も賛同し、2,500人が来場



10月27日クレマチスの丘にある旧ヴァンジ彫刻庭園美術館にて開催

- 日販と包括連携協定を結ぶ長泉町と、静岡県との共創が実現。同町内の文化施設“クレマチスの丘”でブックフェスを開催。
- 書店ゼロ自治体である長泉町だが、近隣県より5書店が出店。他にも地元ゆかりの方の本や雑貨の販売、また絵本を翻訳して海外に届けるワークショップなどを実施。

地域のコミュニティセンターとしての書店を 地元企業との共創で実現



- 下関市で不動産仲介・管理業とホテルの運営を手掛けるはやし住宅と共創し、まちの本屋とホテル「ねをはす」が11月2日山口県下関市にオープン。
- 書店が地域のコミュニティセンターとして人が集まる場所となり、県外からも人が訪れ、本を起点ににぎわいが生まれる場所を目指す。

物流再編プログラムは、実行フェーズへ

取次として

BOOK減少に伴う効率悪化・老朽化が進む中、
コストダウンを追求し続ける

*2025年度中の、ねりま流通センターを浮間流通センターへ統合決定

取引先に対して

商材・荷姿などのニーズ多様化、新業態の導入など、
書店の売場の変化を支える機能拡充を実現する

第一弾「N-PORT新座」は計画通り開設 次はいよいよBOOK拠点再編に向け、検討を進める



物流再編プログラム第一弾拠点となる「N-PORT新座」は10月7日に開設

- 10月中旬よりグループ内の拠点で扱う文具雑貨の移管・出荷を開始。出版物にも対応しており、ブックセラーズ&カンパニーの送品作業も取り込んでいる。
- マテハンに加え、新OMS・WMS※も備えており、今後の物流再編で互換性を持たせていく計画。

※OMS：受注管理システム

WMS：倉庫管理システム

今後に向けて

✓ 更に実績を積み上げ
収益改善を加速させていく

① 集客・単価向上

② 文具雑貨拡大

③ 書店の粗利改善

④ 店舗運営コストの軽減

⑤ 営業・仕入業務のDX

⑥ 書店との地域振興

⑦ 物流再編プログラム

✓ 国の動きも追い風に、
積極的に連動していく

関係者から指摘された
書店活性化のための課題（案）

令和6年10月4日
経済産業省
書店振興プロジェクトチーム

しかし、業界で取り組む流通構造の課題は、まだ未解決
この課題は必ず解消しないとならない

運賃高騰に対し、

- 出版輸配送の持続性を高めるための配送上の制約の緩和
- 適正なコスト負担のあり方

について、ご理解・ご協力いただいている取引先もあるが、

まだまだ課題解消までは遠い。引き続き、皆様とその道を探りたい。

日販が届けるべきものは、

人が、人らしく生きていくため

本 = 文化

との出会い

全国各地で書店の閉店が相次ぎ、
人と文化の接点が、失われている。
この社会課題に対し、日販は、
地域に人と文化の接点をもたらしていく。

人

接
点

本 = 文化

3. 計算書類

(2024年4月～9月)

計算書類（貸借対照表）

（単位：百万円）

資産の部				負債の部			
科目	2024年度	2023年度	前年差異	科目	2024年度	2023年度	前年差異
	金額	金額			金額	金額	
流動資産	101,069	129,179	▲28,110	流動負債	133,861	156,351	▲22,489
現金及び預金	5,046	16,308	▲11,261	支払手形	318	411	▲92
CMS預け金	1,004	1,152	▲147	電子記録債務	7,013	7,377	▲363
売掛金	53,669	68,678	▲15,009	買掛金	86,814	105,781	▲18,966
商品	9,721	9,449	271	未払法人税等	12	0	11
返品資産	28,319	29,832	▲1,512	返金負債	31,640	32,880	▲1,239
その他の流動資産	3,806	4,407	▲600	諸引当金	327	461	▲133
貸倒引当金	▲498	▲648	150	その他の流動負債	7,734	9,439	▲1,704
固定資産	46,581	46,449	132	固定負債	4,473	5,161	▲688
有形固定資産	1,796	1,493	303	退職給付引当金	3,846	4,423	▲577
無形固定資産	1,088	1,071	16	その他の固定負債	626	737	▲111
投資その他の資産	43,717	43,905	▲188	負債合計	138,334	161,513	▲23,178
貸倒引当金	▲20	▲21	0	純資産の部			
				株主資本	9,108	13,773	▲4,664
				資本金	100	100	-
				資本剰余金	17,042	17,042	-
				利益剰余金	▲8,034	▲3,369	▲4,664
				評価・換算差額等	208	342	▲134
				その他有価証券評価差額金	208	342	▲134
				純資産合計	9,316	14,115	▲4,799
資産合計	147,651	175,629	▲27,977	負債及び純資産合計	147,651	175,629	▲27,977

計算書類（損益計算書）

（単位：百万円・％）

科目	2024年度		2023年度		前年比	前年差異
	金額	構成比	金額	構成比		
売上高合計	139,532	100.0	160,737	100.0	86.8	▲21,204
売上高	139,769		155,018		90.2	▲15,249
その他売上高	3,254		9,448		34.4	▲6,194
売上割戻	3,491		3,729		93.6	▲238
売上原価	125,546	90.0	146,202	91.0	85.9	▲20,655
売上総利益	13,985	10.0	14,534	9.0	96.2	▲549
販売費及び一般管理費	15,266	10.9	16,433	10.2	92.9	▲1,166
販売費	8,304		8,799		94.4	▲495
一般管理費	6,962		7,633		91.2	▲671
営業利益	▲1,280	▲0.9	▲1,898	▲1.2	-	617
営業外収益	105	0.1	134	0.1	78.5	▲28
営業外費用	56	0.0	19	0.0	297.3	37
経常利益	▲1,231	▲0.9	▲1,782	▲1.1	-	551
特別利益	308	0.2	-	-	-	308
特別損失	71	0.1	42	0.0	170.0	29
税引前中間純利益	▲994	▲0.7	▲1,824	▲1.1	-	829
法人税、住民税及び事業税	▲185		▲106		-	▲78
法人税等調整額	▲334		▲336		-	1
中間純利益	▲474	▲0.3	▲1,381	▲0.9	-	906

4.補足資料

補足資料

■主要経営指標の推移（中間）

（単位：百万円・人）

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
売上高	194,251	201,065	177,541	160,737	139,532
営業利益	▲112	437	▲626	▲1,898	▲1,280
経常利益	▲20	532	▲494	▲1,782	▲1,231
中間純利益	▲84	348	▲584	▲1,381	▲474
純資産額	18,371	18,099	17,232	14,115	9,316
総資産額	165,020	207,926	192,907	175,629	147,651
従業員数 (他年平均臨時雇用者数)	1,012 (163)	992 (162)	974 (170)	949 (172)	791 (171)

補足資料

■商品売上高の推移（中間）

（単位：百万円）

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
書籍	92,933	101,734	88,854	77,449	72,856
雑誌	53,095	49,030	46,279	40,863	34,134
コミック	39,978	36,685	31,481	26,182	21,816
開発品	12,282	12,818	11,334	10,523	10,961
合計	198,290	200,268	177,950	155,018	139,769

■返品率の推移（中間）

（単位：%）

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
書籍	31.4	28.9	31.6	32.4	30.1
雑誌	46.8	50.4	46.8	47.4	50.7
コミック	21.1	25.0	27.5	30.4	31.2
開発品	36.9	41.2	41.9	37.6	38.0
合計	35.1	36.0	36.3	37.2	37.3

補足資料

■店頭売上前年比

(単位：%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	累計
書籍	96.5	98.4	106.7	97.4	99.2	100.6	99.6
雑誌	93.9	96.1	101.7	99.1	97.7	97.7	97.6
コミック	99.0	94.0	97.4	89.7	93.5	96.4	94.9
開発品	104.8	106.9	109.2	91.8	92.3	94.3	99.0
合計	96.7	96.9	103.1	95.6	97.2	98.6	97.9

■取引書店数・新規店数・閉店数

(単位：軒)

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
取引書店数	2,596	2,526	2,390	2,037	1,968
新規店数	41	34	38	32	11
閉店数	101	105	129	168	74

※2024年度のみ中間時点の実績